

令和5年度「学校評価結果報告書」

当園ではこの度、令和5年度の学校評価として、教職員自己評価を実施いたしました。教職員一人ひとりが、自らの教育活動や園運営の状況を振り返ることで、自身や園全体を見つめ直すいい機会となりました。

また、それぞれの評価結果について、皆で話し合うことにより、成果や今後の課題、改善の方向性などを明らかにすることができました。この結果を深く受けとめ、更なる教育活動の充実、教育環境の整備、教職員の資質向上に努めてまいります。

I. 教育目標

カトリック愛の精神をもとに情操教育に重点をおいてよりよい環境を提供し、幼児期における健全な心身を養う。

II. 今年度の重点目標

- 配慮が必要な子どもへの対応の充実
- 安全管理体制の強化
- 保護者対応力の向上
- 教育環境の整備
- 子育て支援の充実

III. 評価項目と取組み状況

評価項目	取組み内容	評価	取組み状況
1 配慮が必要な子どもへの対応の充実	教職員個人で解決するのではなく園と保護者、さらには外部団体の協力も得て、配慮が必要な子どもの症状を見極め、その子にあったカリキュラムの作成を行う。	B	配慮が必要な子どもたちの療育先の指導者や医療関係者に園での様子を見学してもらった。見学後に意見交換し、療育先の見学も実施した。その後も連携して保育を行っている。また子どもの様子を共有したり、園長先生やカウンセラーに相談し、意見を取り入れながら関わった。 配慮が必要な子どもが増えていく中で園内での共有だけでなく、外部機関のさらなる協力を得ながら保育に取り組んでいく必要がある。
2 安全管理体制の強化	現状、教職員の役割や避難行動も決められているが、マニュアルの見直しや訓練の強化を行う。	S	幼稚園や保育園のニュースが報道されると、「自園だったらどうだったか？」というようなテーマが日常会話で発生するほど、園内での危機意識は高まっている。マニュアルの見直しも随時実施しており、安全管理体制の強化を計画的に行っている。 マニュアルにはない「担任の先生が休みだった場合」等、様々なシチュエーションを想定し、あらゆる可能性に対応できる体制を目指す。

令和5年度「学校評価結果報告書」

学校法人マリア学園
聖母幼稚園

×		取組み内容	評価	取組み状況
3	保護者対応力の向上	保護者の要望は、子どもの普段の様子を知りたいということが前提にあることを踏まえ、可能な限り応えていく。 自身では解決が難しい要望の場合は速やかに主任や園長に相談し、解決策を検討する。	B	必要に応じて送迎時や電話連絡、連絡帳などで子どもの園での様子を伝達し、普段から保護者とのコミュニケーションをとることで情報共有できる関係づくりをしている。 同じ質問でも職員によって対応が異なるということがないように、共通認識を深めることが重要と考えている。日常的な共有に加え、周囲のフォローも交えて対応する。
4	教育環境の整備	不要なものは廃棄し片づけるなど、園内の美化に努め、子どもが安全で快適に過ごせる環境を設定する。施設・設備は常に整備され、室内は清潔で整理整頓が行き届いている状態を目指し、取り組む。	A	保育室内の清潔が保たれているのはもちろんのこと、子どもの豊かな感性を引き出す環境のため、季節ごとのディスプレイ等にも工夫がされている。設備安全点検表を作成し、各クラスの安全点検を意識的に取り組むことをスタートした。この点検表を活用しながら、安全な園作りへの意識を高めていきたいと思う。
5	子育て支援の充実	子育て支援事業の充実に向けた取り組みを進める。	A	未就園児とその保護者が集う「エンゼル広場」や園見学説明会を行った。保護者の意見を取り入れながらプログラムに取り入れたり、保護者同士で接点を持ってもらい、悩みや喜びを共有してもらい取り組みを試みた。繰り返して参加していただくことで繋がりが強固になっていくことを実感した。 保護者のニーズを把握するだけでなく、日常生活に関して保護者指導などができればさらなる関係性の構築につながるのではないかとと思う。

【評価の基準】

S	十分達成されている
A	達成されている
B	取組まれているが、成果が十分でない
C	取り組みが不十分である

IV. 今後取り組むべき課題

1	配慮が必要な子どもへの対応の充実	配慮が必要な子どもに対しては再度、職員間で共有を深める場を設けるようにし、保護者との共有にも努める。
2	安全管理体制の強化	避難訓練の状況を保護者に見てもらうなどの様々な試みによってさらなる改善点を見出し、より実践的なものとしていく。
3	保護者対応力の向上	経験の浅い先生や対応に自信がない職員のフォロー体制作りが必要である。
4	教育環境の整備	保育室内だけでなく共有部分への美化意識も高めていく。
5	子育て支援の充実	製作以外の「食育」や「外あそび」のような活動、プログラムを勘案し、バリエーションを充実させる。